

通信教育講座**ハウビオロギー**

7

**生物学的建築材料学
+ 建築の物性**

ヴィンフリート・シュナイダー
アントン・シュナイダー

日本語版監修 濱田 ゆかり、坊垣 和明、
土田 直樹



Institut für Baubiologie + Ökologie, 83115 Neubeuern
www.baubiologie.de



日本ハウビオロギー研究会
Baubiologie Institute of Japan
www.baubiologie.jp

生物学的建築材料学 ／建築物性

7

1. 全体性を視野においた考察	3
2. 発展の歴史	6
3. 建材と部材の評価	9
3.1 断熱 - 蓄熱 - 表面温度	10
3.1.1 建築物理学的単位、公式、計算例	10
3.1.2 木材と合板	18
3.1.3 施工のための情報	19
3.1.4 屋外部材のU値と暖房エネルギー消費の関連性	22
3.1.5 まとめ	24
3.2 吸湿性	27
3.3 材に含まれる水分と乾燥時間	36
3.4 水蒸気の透湿、結露水、防湿	43
3.4.1 建築物理学的単位、公式、計算例	43
3.4.2 施工に関する情報	50
3.5 防風層、気密層、継目の水蒸気透湿性	55
3.5.1 防風層	56
3.5.2 気密層	58
3.5.3 継目	66
3.5.4 換気を助ける建材の通気性	69
3.6 内断熱の場合の湿気による害	71
3.7 吸着 - 再生 - 有毒物質 - 臭い	76
3.8 電気的・磁気的特性	82
3.9 電磁波（高周波、マイクロ波）	86
3.10 放射能とラドンガス	88
3.11 五感での知覚	91
3.12 生物物理学的測定方法	93
3.13 音響特性、防音、遮音	96
3.14 コストパフォーマンス	101
4. 断熱材の全体的評価	104
5. バウビオロジーに基づく総合評価	109
6. バウビオロジー測定技術基準	115
自己確認問題	116

建材	ρ [kg/m ³] s. 3.1.1 a)	λ [W/mK] s. 3.1.1 a)	c_p [J/kgK] s. 3.1.1. g)	容積比熱 s [kJ/m ³ K] s. 3.1.1 h)	熱伝導率 b [kJ/m ² ·K·s ^{0,5}] s. 3.1.1 j)	温度拡散率 $a \times 10^{-3}$ [cm ² /s] s. 3.1.1 k)
ポリスチレン	15	0,035	1,500	22,5	28	15,6
ポリスチレン・ロックウール	30	0,040	800	24	31	16,7
亜麻断熱材・麻断熱材	30	0,040	1,300	39	39	10,3
セルロース充填断熱材	50	0,045	1,900	95	65	4,7
おがくず	70	0,055	2,100	147	90	3,7
コルクボードとココヤシ纖維	100	0,045	1,600	160	85	2,8
ストローベイル	100	0,045	1,260	126	75	3,6
木質軟質纖維板	190	0,045	2,100	399	134	1,1
ヨシ	190	0,055	1,300	247	117	2,2
木毛軽量板	400	0,075	2,100	840	251	0,9
多孔コンクリート	400	0,10	1,050	420	205	2,4
多孔質レンガ	600	0,12	920	552	257	2,2
無垢材(軟材)	600	0,13	2,100	1,260	404	1,0
土ボード	500	0,14	1,140	570	282	2,4
軽量土(レーム)	800	0,25	1,100	880	469	2,8
石膏纖維板	1,000	0,27	840	840	476	3,2
石灰砂岩 1.0	1,000	0,50	880	880	663	5,7
レンガ HLZ 1.2	1,200	0,50	920	1,104	743	4,5
土(わら入り)	1,200	0,55	1,000	1,200	812	4,6
土モルタル	1,700	0,80	1,000	1,700	1,166	4,7
石灰しつくい	1,800	0,87	960	1,728	1,226	5,0
マッシュ土	1,800	0,91	1,000	1,800	1,280	5,1
砂岩	2,400	2,10	930	2,232	2,165	9,4
鉄筋コンクリート	2,500	2,10	960	2,400	2,245	8,7
鉄筋	7,800	60,00	400	3,120	13,682	192,3
アルミニウム	2,700	203,00	900	2,430	22,210	835,4

表 1 : 建材別に見た熱物性値 (おおよその値)

メーカーあるいは製品によって、物性値が変わることもありうる。

出典 : DIN 4108-4、DIN-EN 12524。メーカーによる自己申告値

極めて重要な公式 - この他の公式は3.1.1 a)からk)を参照。s. Kap. 3.1.1 a) - k):

$$R = d/k$$

熱伝導抵抗 :

$$U = 1 / (R_a + R_T + R_{se})$$

$$\begin{aligned} s &= c_p \times \rho \\ b &= \sqrt{\rho \cdot k \cdot c} \quad \text{oder} \quad \sqrt{k \cdot s} \\ a &= \lambda/s \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} [m^2 K/W] \\ [W/m^2 K] \\ [J/m^3 K] \\ [J/m^2 \cdot K \cdot s^{0,5}] \\ [cm^2/s] \end{aligned}$$

熱特性	a) マッシブ ホルツ構造	b) 砂岩組積構造	c) 木造枠組工法
壁の厚さ	20 cm	50 cm	30 cm
熱伝導率	0,13	2,1	1)
断熱性 (U値)	中程度 (0,6)	非常に劣る (2,5)	非常に優れている ($\leq 0,25$)
蓄熱性	Q_{sp} [kJ/m ² K] 250	1110	120
表面温度 2)	高い 17 °C	非常に低い 10 °C	非常に高い 19 °C
必要とされる室内気温 3)	低い 19 °C	高い 24 °C	非常に低い 18 °C
暖めるためにかかる時間	低い 2 h	非常に長い > 6 h	非常に短い 1 h 4)
冷えるためにかかる時間	長い 100 h	5)	短い 35 h
ヒートブリッジ 7)	なし	多い	なし
凝縮・結露水	なし	頻繁に発生	なし
暖房エネルギー需要	少ない	高い	非常に少ない
乾燥にかかる時間	なし	長くかかる	なし
含水率1%上昇あたりの 断熱性能の低下	1 %	12 %	材によって異なる

注：

- 1) 壁は複数の建材層から構成されている。例えば断熱材は $\lambda=0.04$
- 2) 冬期の平均値、気温20°C
- 3) 快適性曲線に依拠。通信講座バウビオロギー第3巻「居住環境」
2.2キャプション4を参照
- 4) 使用頻度の低い、あるいは短時間しか使わない部屋／建物に向いて
いる（週末用別荘、作業場など）。
- 5) 特に冬場、外壁は非常に冷たいままになる（表面温度を参照）ため、
蓄熱材としてはまず内壁が重要になる。
- 6) 短時間で冷えてしまうという欠点を補うため、屋内（内壁、天井）
側には重い材を用いるとよい。
- 7) 木造建築においては、特に断熱されていない土台部にヒートブリッ
ジが発生することが考えられる。

一覧表 1. 工法別に見た熱特性
(主に外壁部分。およその値)

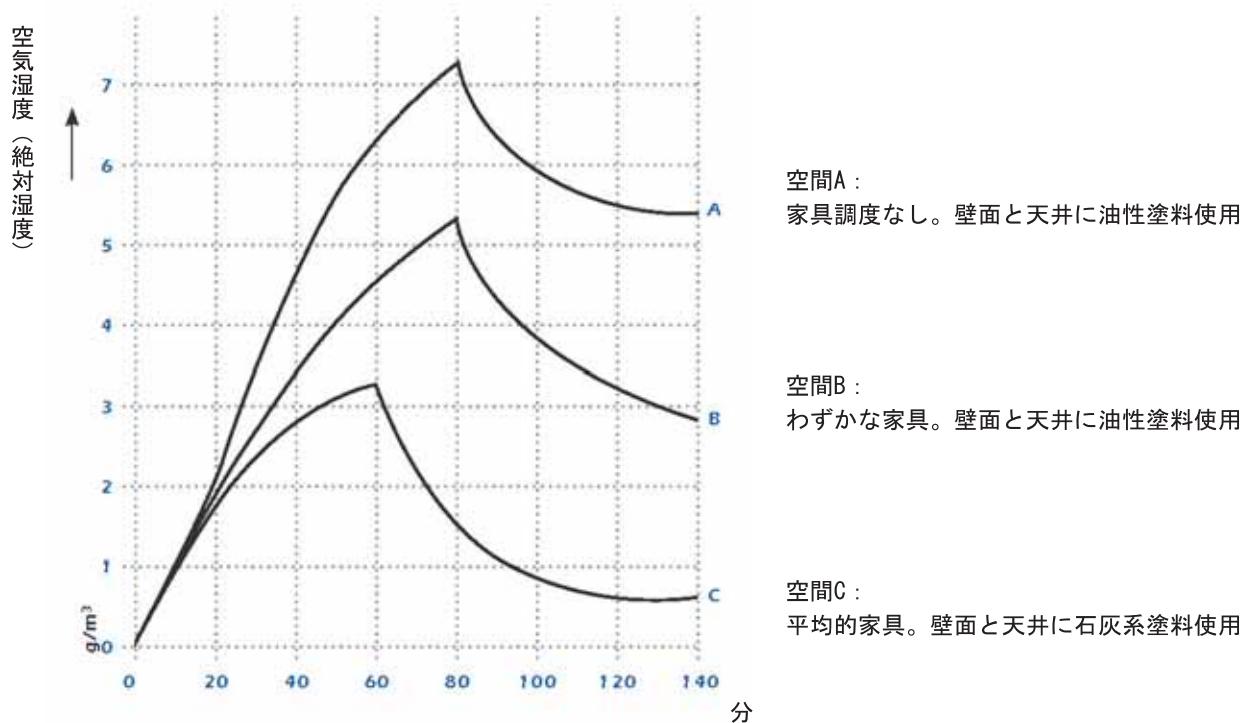


図5. 建材、家具調度、塗料による調湿

出典：建築物理学研究所（所在地：Holzkirchen）

すべての空間において、水分の蒸発は60分後に停止した。空間Aでは、水分が壁面と天井で結露し、吸収されずに再び気化したために、空気湿度はその後もしばらく上昇を続けた。相対湿度を ϕ （ファイ）=50%と仮定すると、空間Aにおける空気湿度は80分後に93%、空間Bでは81%まで上昇したことになる。しかし、空間Cにおいては、空気湿度はすでに60分後に最高値の70%に達し、蒸発終了後はすぐに低下を始めている。そしてA・Bとは対照的に、140分後にはほぼ最初の値にまで戻っている。空間の調度品も重要な役割を果たすことは、空間AとBの値の差からも見て取れる。家具の張り布、仕上げ材料の吸湿性によって違いが出ることは明らかである。

		A 热特性	B 湿度特性	C 水蒸気透湿性 sd	D 毒性	E 製造	F 廃棄	G 燃性	H 耐久性	I 総合評価
1.	ポリウレタンPUR	$\lambda=0.030$	+	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	-13
2.	ポリスチレン EPS+XPS	$\lambda=0.035$	+	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	0 -12
3.	グラスワール・ロックウール	$\lambda=0.040$	+	- - -	++	- - -	- - -	+	+	-3
4.	ポリエスтель	$\lambda=0.040$	+	- - -	++	0	-	-	-	-3
5.	羊毛 (フリース)	$\lambda=0.040$	+	+	++	-	+	-	0	+ 3
6.	コットン (フリース)	$\lambda=0.040$	+	0	++	0	-	+	0	0 2
7.	亜麻、麻 (フリース)	$\lambda=0.040$	+	+	++	0	0	+	0	5
8.	セルロースファイバー	$\lambda=0.045$	+	+	++	-	0	+	0	+ 6
9.	木質軟質繊維板	$\lambda=0.045$	++	++	++	0	-	++	0	0 9
10.	炭化コルク	$\lambda=0.045$	+	0	++	0	-	++	-	0 5
11.	ココヤシ繊維	$\lambda=0.045$	+	++	++	0	-	++	0	- 5
12.	ヨシ	$\lambda=0.055$	0	+	++	0	0	++	0	+ 7
13.	発泡ガラス	$\lambda=0.050$	+	0	0	0	-	++	0	0 5
14.	珪酸カルシウム板	$\lambda=0.050$	+	++	++	0	-	++	0	9
15.	泥炭	$\lambda=0.050$	+	++	++	0	-	++	-	- 6
16.	パーライト	$\lambda=0.050$	+	-	++	-	0	++	+	+ 5
17.	ストローベイル	$\lambda=0.045$	+	+	++	0	0	++	+	8
18.	おがくず	$\lambda=0.055$ ／木毛ワール	$\lambda=0.065$	++	++	0	0	++	+	8
19.	バーミキュライト	$\lambda=0.070$	0	-	++	0	-	++	0	5
20.	木毛軽量板	$\lambda=0.075$	0	++	++	0	-	++	-	6
21.	発泡粘土	$\lambda=0.080$	-	+	++	0	-	++	-	5

一覧表 6. 断熱材の評価 ($\lambda < 0.1$)

解説は次ページ参照

0 重要性なし、あるいは評価なし

-

- 大変劣る／懸念あり

- 大変優れている

「総合評価」は、プラス点とマイナス点の合計点